

20年05月世界市場サマリー

株式会社LOGOSキャピタルパートナーズ
代表 伊藤 武

世界市場は渦中のコロナ騒動に完全に支配されている状況が継続しています。現時点でパンデミックの規模は世界全体で感染者は600万人、死者数は36万5000人となり更なる増大は必至です。感染者数最大のアメリカでの死者数は10万人を超えてしまいました。相対的に見ると特筆されることはアジア諸国の感染及び致死率が極めて低い事実です。その中日本はPCR検査数が圧倒的に低く、実態把握が定かでないものの、緊急事態発言解除に当たり安倍総理は日本モデルを自画自賛している次第です。傾向としてコロナは峠を越え世界的にもロックダウンは解除され、経済活動も正常化方向へと転換しています。12年前のリーマンショック当時の状況とは異なり、それを教訓に各国政府と中央銀行は必要で積極的な対応策を講じていると市場は観測しています。コロナによる景気の落ち込みは戦後最悪となることはほぼ確実となっています。にも拘わらず対応策を背景に景気はV字型回復を実現できると市場は読んでいます。NYダウ平均5月末は25,383ドルで引け3.4%上昇し、日経平均は3月以降世界で最も高い反騰となり、5月は8.3%上昇の21,878円で引けています。

未曾有の大不況と二次感染も警鐘される中、世界株式市場は早期回復とその後のニューノーマル環境に期待をかけています。4月以降の急反騰の対応策として一部株式の売却をお勧めしました。その後も変動率が高いながらも右肩上がりに推移していますので、ポートフォリオ全体としては遅行する状況です。しかしながら、現時点においてはリスク軽減を重視する姿勢に変わりがありません。コロナ第一波後のニューノーマル環境はコロナ前の世界よりも慎重にならざるを得ないと考えます。

世界ニュースはコロナ状況が最悪期を切り抜けた観測以外に目立った朗報は皆無です。最も注目されるのは11月に大統領選挙を控えるアメリカで、再選を勝ち取るためのトランプ大統領の言動です。戦略的にはポピュリズムを基盤とした堅固な支持層を絶対的に確保することで、ことごとくアメリカ社会を分断する言動に終始しています。彼のツイッター送信は増える一方で、日々1000回を超えるに至っています。コロナ渦中投票率の低下を期待し、支持層の熱狂に依存することを頼りにしています。それらの言動は対外的にも当然分断を促進しますが、全く意に介しません。WHO撤退等もしかりです。もう一つの戦略は対中国関係で、米国内でも対外的にも警戒感が高まる最中、トランプ大統領はそれを最大の武器とし、対中強硬論を強化して行くでしょう。地政学的観点からも憂慮すべきでしょう。世界市場は当面の間コロナの行方と米大統領選挙までの道筋を見守ることとなるでしょう。

本資料は、株式会社LOGOSキャピタルパートナーズ（以下「当社」という）が情報の提供のみを目的として作成したものです。当社が提供する情報は十分信頼に足るものと信じておりますが、それを保証するものではありません。ここに掲げる過去の実績は必ずしも将来の動向を示唆するものでなく、実際の収益を確約するものではありません。記載された見解等の内容は全て作成時点でのものであり、今後予告なく変更されることがあります。この資料及びここに掲載された情報等の権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部若しくは一部を複製し、又その他の方法で配布することはご遠慮ください。